

第8章 整備

第1節 方向性

1 「穂の国」の歴史発信

- ・史跡馬越長火塚古墳群を核とし、豊川流域全体で「穂の国」の歴史を発信する交流拠点の形成を目指す。
- ・馬越地区に、穂の国の歴史を学びつつ、多世代の交流ができ、同時に住民が憩うことのできる施設を整備する。

2 本質的価値の共有について

- ・多くの人が史跡を訪れ、その価値を広く共有・体感できる史跡公園として整備を行う。
- ・史跡の本質的価値を顕在化させるため、墳丘復元のあり方について検討する。
- ・特に馬越長火塚古墳の石室については、安全に公開するための調査と整備を行う。
- ・墳丘盛土の流出防止や石室の保存・補強など、遺構保存のための整備を行う。

3 人々の営みや景観との共存について

- ・現在の里山景観や環境を保全しながら、それらと史跡との調和を図った必要最小限の整備を行う。
- ・史跡整備にあたっては、周辺の農地や集落環境になじむよう、建物等の形態や色彩の配慮を行う。

本章では、上記の方向性に沿った具体的な整備の手法として、次の3項目について方針を定める。

○保存と展示公開のための遺構の整備

○史跡活用のための周辺整備

○史跡活用を促す仕掛けづくり

第2節 方針

1 保存と展示公開のための遺構の整備【ハード整備】

○馬越長火塚古墳

- ・墳丘盛土の流出防止のため、必要な部分に保護盛土を行う。
- ・横穴式石室の公開を前提とし、必要な調査と安全性維持のための補修を行う。
- ・後円部の墳丘下段は、後世に削られた部分を盛土復元し、本来の墳丘形状を可視化する。
- ・前方部は、本来の墳丘形状を復元する。
- ・葺石等の遺構の表面表現については、必要に応じて、一部復元の可能性を含めた取扱いを検討する。
- ・区画溝や一部墳丘下段は、地衣類を活かした遺構の位置表示を行う。
- ・将来的には、墳丘上に所在する市道や、上水道管（本管）、豊川用水支線の移設を検討する。

○大塚南古墳・口明塚南古墳

- ・横穴式石室は必要な調査を行った後、保護盛土し適切に保存するとともに、見学者がその価値を理解しやすいような整備手法を検討する。
- ・墳丘上に盛土し、おおよその墳丘本来の形状を可視化するための復元をする。
- ・馬越長火塚古墳の整備を優先的に行う。

2 史跡活用のための周辺整備【ハード整備】

(1) 活用を促し、管理の拠点となる施設の整備

- ・ガイダンス施設の理念：史跡公開活用の核となる、馬越長火塚古墳群と地域の歴史文化を紹介する展示や講座の充実、案内人やコーディネーターなどボランティアの拠点、来訪者と地域との交流の場、駐車場（大型バスの駐車が可能なもの）やトイレといった便益施設の機能を有するものとする。

- ・ **管理の拠点**：ガイダンス施設には常駐の人員を配し、古墳群と周辺施設の管理を行う拠点とする。
- ・ **ガイダンス施設の場所**：利用者に配慮し、ガイダンス施設や便益施設は県道（主要地方道豊橋新城鳳来線）沿いに配置することを検討する。
- ・ **ガイダンス施設の機能拡充**：市域北部に豊富に分布する歴史文化資源は、南部に比べて知名度が低い。そこでガイダンス施設に、市域北部の文化財に関するインフォメーションや、ソフト機能の拠点を配置して、観光情報と連動させた情報発信ができる環境を整備する。
- ・ **導線計画にもとづく各施設の整備**：古墳や周辺の歴史文化資源を周遊する導線計画を作り、豊橋の歴史文化学びのネットワークの一部として、各施設を計画的に整備する。

(2) 周辺の管理施設、便益施設、古墳に至る道路の整備

- ・ 史跡指定範囲の区域を明瞭にするために、史跡標柱と境界杭を設置する。
- ・ 見学に必要なトイレ（据置型の仮設を含む）、ベンチ、県道から古墳へのアクセスを検討（道路の拡幅や歩道の設置など）する。
- ・ 周遊可能な見学者動線の設定とサインの整備を行う。
- ・ 指定地内の遊歩道は歴史的環境に調和した仕上げとし、指定地範囲を可視化する。
- ・ 墳丘の形や3古墳の立地を俯瞰できる適切な位置に、ビューポイントを設置する。

(3) 施設整備のための配慮

- ・ 景観計画に配慮した施設整備を行う。
- ・ バリアフリーに配慮した整備を可能な範囲で実施する。
- ・ 防犯に配慮した管理手法の検討を継続的にすすめる。

3 史跡活用を促す仕掛けづくり【ソフト整備】

- ・ 豊橋自然歩道への接続を考慮しつつ、既存の道路を活かした簡易な遊歩道のコースを設定する。
- ・ 谷地形を活かした現在の環境のコントロールを行う。
- ・ AR（拡張現実）、VR（仮想現実）等遺構への影響が少ない新技術を活用した展示手法を検討する。
- ・ 大塚南古墳と口明塚南古墳は、さらなる調査の実施を検討し、ARやQRコード等を応用した現地展示解説手法を検討する。
- ・ 見学者の史跡への理解を促すために、ボランティアガイドを設置し、その人材の育成と活動支援策を講じていく。（「第9章 運営・体制の整備」に再掲）
- ・ 史跡のファンクラブの設置を検討し、その活動支援策を講じていく。（「第9章 運営・体制の整備」に再掲）
- ・ 姫街道沿道の市町の横断的な協力体制を築く。

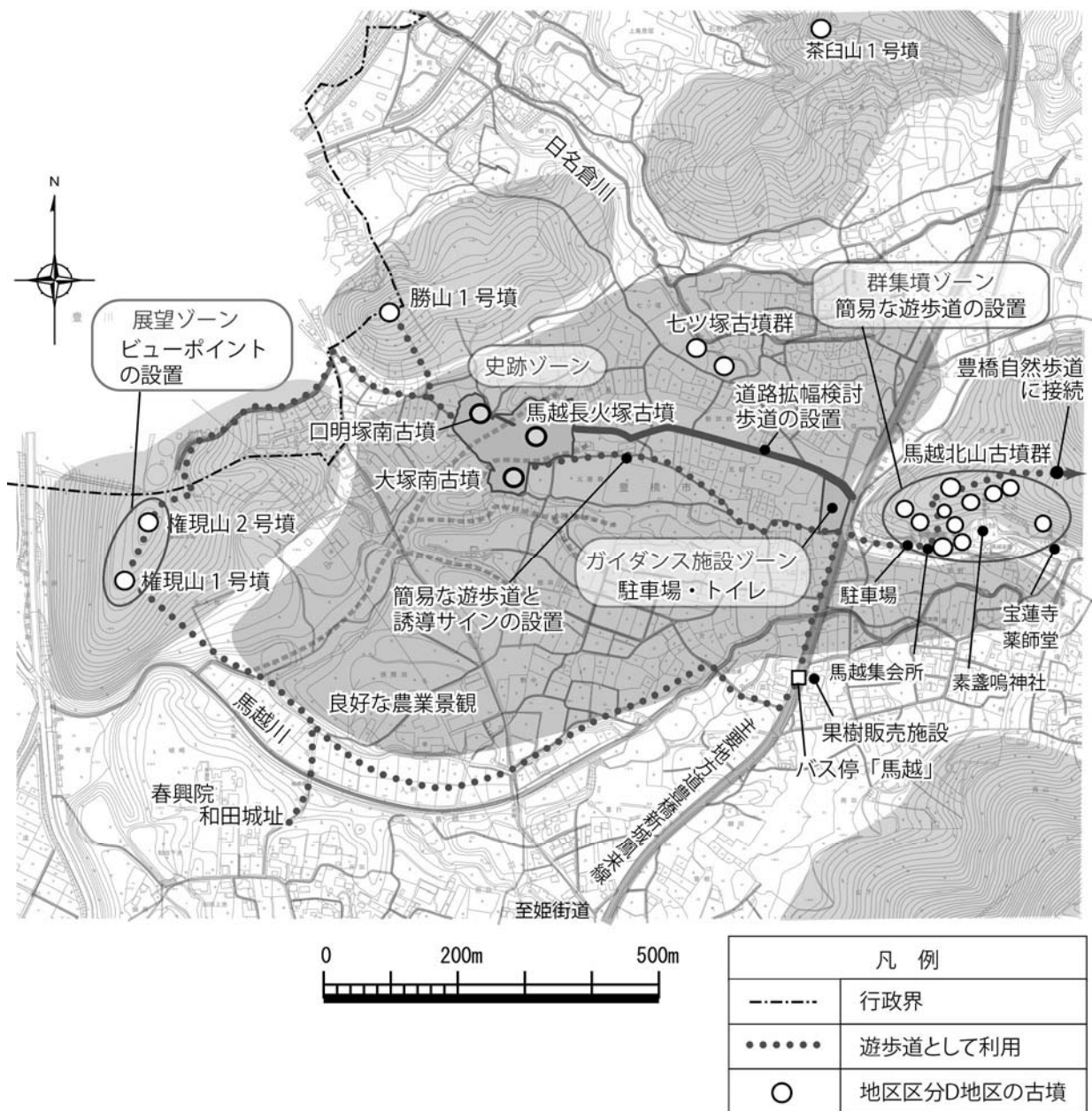


図 38 馬越地区の整備計画図

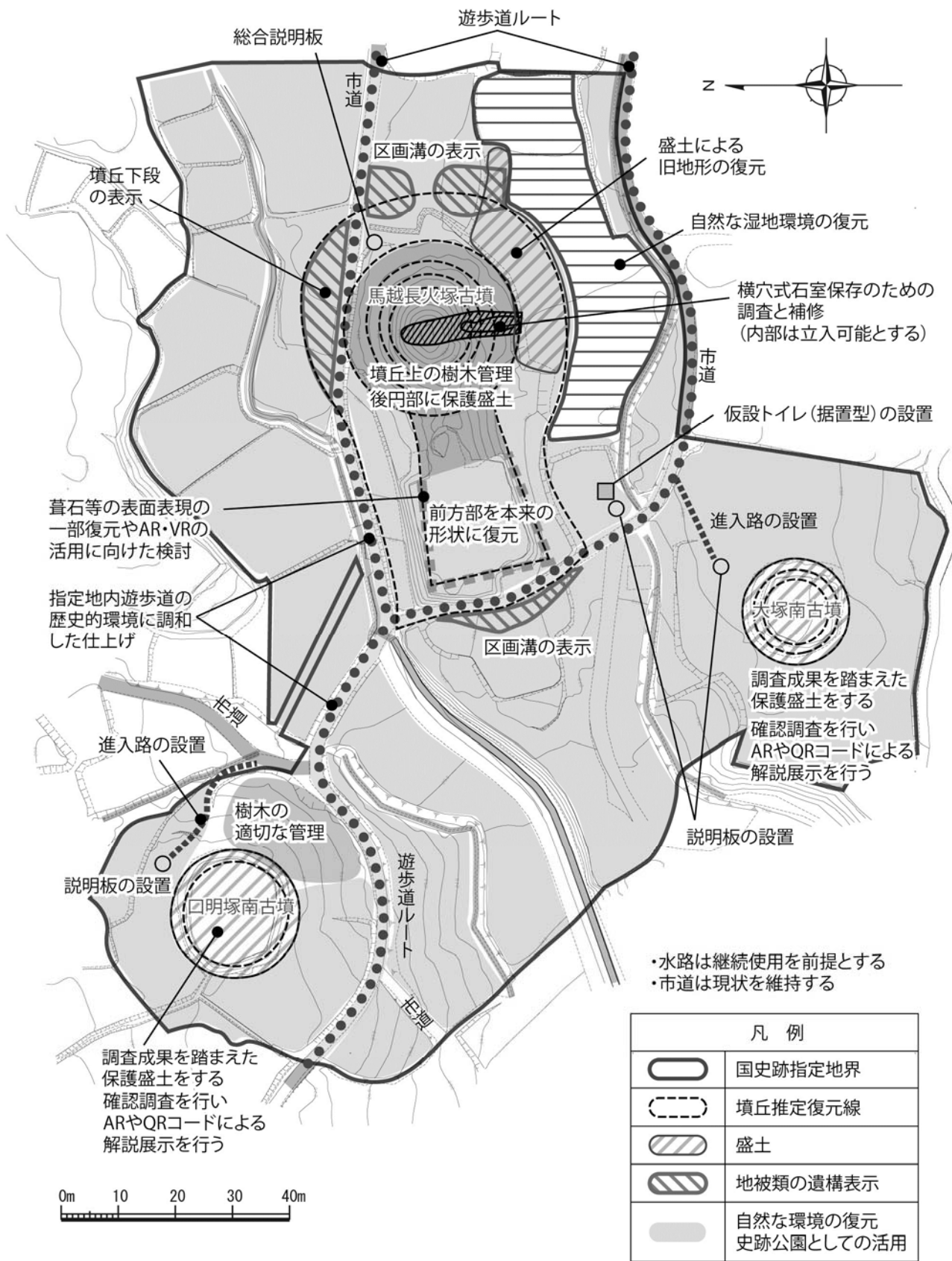


図 39 史跡指定地内の整備計画図